

一貫教育校の広場

湘南藤沢中等部・高等部開校30年

●湘南藤沢中等部・高等部 教諭

海老原 晶子 えびはらあきこ

慶應義塾湘南藤沢中・高等部は1992年に開校し、今年で30年が経ちました。

30年記念事業の一つとして、制服の見直しを行いました。この機会に、本校の特徴とともに服装の変遷を振り返ってみたいと思います。

日常の通学服は、スラックス・スカートのみ指定の物を着用し、他は自由となっています。本校のモットー「社会の良識が校則」に則り、「完全な制服にはしないが、同じキャンパスの大学生とは区別する必要がある」ということで考えられた規定です。スラックス・スカートはそれぞれ種類あり、生徒たちはTPOや自分の個性を考えながら自由にコーディネートを楽しんでいます。その時々、流行に左右されることもあります。が、おおむね良識ある服装で通学しています。式典や修学旅行などのときには式服を着用します。当初は通年同じ物を着ていましたが、あまりにも暑さが厳しくなったため、現在では夏季式服を別に指定しています。

式服の際には男女ともネクタイを着けます。本校では開校当時から男女混合名簿、家庭科共修（学習指導要領では中学は93年、高校は94年から実施）です。今振り返ると、ジェンダーという言葉がまだ一般的ではなかった頃から、それが当然の雰囲気でした。とはいえ、式服でも通学服でも女子はスカートのみという規定は長く続きました。



今回の制服見直しでは、男女とも同じ生地です。種類を増やしました。最大の変更は、女子用のスラックスができたこと。以前から要望はあったのですが、社会的にジェンダーフリーの機運が高まったこともあり、30年を機に作るようになったのです。一昨年から換気のため冬でも窓を開けるようになりました。その防寒対策として2020年度から作成を始め、実際に着用する生徒も増えていきます。

また、生徒会が主体となって通学用の鞆も作成しました。以前も肩掛けのバッグを作ったのですが、今回はリュックです。そして生徒の希望が多く反映されています。例えば、情報教育を重視している本校では、多くの生徒が個人用PCを持って来ます。そこでPCを入れるスペースを作りました。また、ワンタッチで背中から前に回せる仕組みを採用しており、交通機関の混雑にも対応できます。バス通学の本校生ならではの発想です。

こうしてみると、服装や持ち物も、気候変動やジェンダー、IT化など、社会の動きと深く関わっているのだと思います。

ところで、30年といえば一世代。卒業生が保護者として戻ってきてくれるようになりました。また、横浜初等部から進学してきた生徒たちが高等部生となり、小・中・高の一貫教育もいよいよ完成に近づいてきました。教職員一同、これからも生徒・卒業生、皆で協力しながら、よりよい学校を築いていきたいと考えています。

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)